

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>ホームとしての独自の理念を作り、ホーム内に掲示し、毎朝必ず全員で唱和し、職員全員が取り組むようにしている。</p>		<p>職員が理念を理解し、日々実践するようにしている。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>常に毎朝ホームとしての理念を読み上げ、日々実践するように心掛けている。</p>		<p>日々取り組めるように職員同志で話し合うようにしている。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族会を開き、ホームとしての取り組みを説明し、理解して頂けるように努めている。地域の方とは概ね2ヶ月に1回ホームに来ていただき、ホーム内での活動を分かりやすく説明している。</p>		<p>ホーム内の説明会、ホームの便りを発行し、家族に送っている。それぞれ一人一人に職員が近況報告を書いて、1ヶ月に1回家族に送付している。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>入居者の生活の安定や拡がりのために周辺地域から協力を得ることができるよう理解を広げる働きかけを行うようにしている。</p>		<p>ホームの役割が地域で理解されるように説明会を開いたり、町内会の行事に参加した際にホームの説明をしている。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域内で行っている盆踊りには積極的に参加し、楽しく地元の人々と交流している。詩吟や民謡など地元の方で作った会の方もホームに来て発表している。</p>	○	<p>自治会の行事には参加しているが、近くにある保育園との交流がないため園児にホームに来てもらい、幅広く交流を深めるようにしていきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>ホームの機能を入居者のケアに配慮しつつ、地域に開放している。</p>	○	<p>地域の高齢者の方との交流がないため、これから取り組むようにしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価で取り組めていない所は、取り組めるように職員同志が話し合い改善するようにしている。</p>		自己評価・外部評価を生かし、実践するようにしている。
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議を定期的に行い、地域の方に意見を求めたり、ホームでの取り組みの報告を行い、そこで出た意見をサービスの向上を目指している。</p>	○	運営推進会議で出た改善案を直すように職員同志で話し合い、日々サービスの向上をするようにしている。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村との連絡を密に取り、常に細かに報告を行い、市町村と共にサービスの向上に取り組んでいる。</p>		市町村との関わり合いをより密着するように取り組んでいきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>必ず月1回ホーム会議とカンファレンスを開き、成年後見制度を学ぶ機会を持ち、必要な支援について話し合いの場を設けている。</p>		ホーム会議・カンファレンスで出た意見をケアに生かすように日々それを活用できるようにしている。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>常に職員同士が目を見せ、虐待を見過ごさないようにしている。</p>		職員一人一人が虐待がないように注意を払い、日々のケアを行っている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居する前にきちんと家族や利用者に説明し、不安がないように安心した生活を送れるようにしている。</p>		家族や利用者に契約する前に詳しく説明し、理解していただき、納得してもらえるように取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員がきちんと利用者の意見・不満、苦情を聞き入れ、不安を取り除き、改善すように取り組んでいる。		利用者の意見をしっかり聞き、不安を取り除くように支援するよう取り組んでいる。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族がホームに来所した時は必ず報告したり健康状態が悪い時は早急に電話で報告している。		毎月、家族に近況報告書を職員が書いて個々に合わせた報告を分かりやすくしている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を開き、家族と職員が話し合う場を設け、意見を求め、改善する機会を作り、運営に反映している。		家族会は不定期しか行っていないため、きちんと定期的に行えるように取り組んでいきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営方法、入居者の受け入れや入居継続の可否について職員の意見を聞いている。		ホームの運営、介護計画の作成、入居者の受け入れなどスタッフの意見が尊重されている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	要望がある時はきちんと話し合い、納得した上でお互いが協力し、勤務の調整に努めている。		緊急時は常に連絡できるようにしており、お互い助け合い勤務の調整をしている。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員が異動や離職する時は利用者には報告せず、不安にならないように他職員が支援し、ダメージを防ぐ配慮をしている。		利用者を不安にさせないように他の職員がよく話を聞き、支援するよう取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	職員が採用時、フォローアップ等、それぞれの段階に応じた研修をし、その内容をすべての職員に周知している。	○	会社として計画的、継続的な研修計画のもとにスタッフの積極的な教育研修が行われている。研修参加後には内容を全スタッフに報告している。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	市のグループホーム同士の交流会が定期的であり、お互いのホームでの取り組みを発表し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○	利用者同志の交流の場もあり、お互いのホームの特徴やセールスポイントなどを発表するようにしているが、まだまだ機会が少ないため多くしていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	職員の業務上の悩みやストレスを解消するため新年会や食事会など職員同志の親睦を深め、ストレスを軽減するよう取り組んでいる。	○	仕事上の悩みやストレスは管理者との話し合いで解決を図っているが、会社として日常的にストレスを緩和する仕組みが整備されていない。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	各自が向上心を持ってもらうため、ホーム会議で勉強会を開き、個々のレベルアップにつなげている。		ホーム会議ではそれぞれ困ったことや向上したい介護状況などについて他の職員に意見を求め、各自が向上心を持って働けるように取り組んでいる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	職員が親身になって話を聞き、困っている事、不安に思っている事、求めている事などをよく聴く機会を多く作り、本人との信頼関係を深めるように努力している。		訴えがある時は必ず話を聞き、何が困っているのかを考え、安心して暮らしてもらえるように取り組んでいる。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	家族が気がかりなことや意見、希望を職員に気軽に伝えるようにしたり、面会時の声かけ、定期的に連絡等を行うようにしている。		家族が来訪した際に声掛けをし、意見や要望を聞くように取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他の施設と協力し、家族に相談を受けた時、デイサービスなどのサービスを利用している。		その人に合ったサービスを提供し、満足してもらえるようにしている。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	職員が場の雰囲気を作り、徐々に馴染めるようにしている。家族がどのようなことが好きなのか聞き、実践するようにしている。		常に家族との連携を密にし、安心して毎日を過ごしてもらえるよう職員が馴染めるようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人ができることはしてもらい、他の利用者や職員と一緒に家事や掃除等をし、支え合う関係を築くようにしている。		日課としてテーブル拭き、洗面台拭き、新聞折りなど、できることはしてもらっている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と協力し、本人を共に支え合うように話し合いの場を作り、支援するようにしている。		家族との交流がある利用者となない利用者があるため、より親密な関係を築き、支えている関係を作りたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族との交流の場を多く作り、いつ来所してもいいように常に開かれた場を提供するようにしている。		家族がいつでも来やすいようなホームを目指し、常に開かれた場を提供している。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人がいつでも来やすいように常に受け入れをし、本人と一緒に過ごしていけるようにしている。		馴染みの人が来やすいように、来所された際は職員が笑顔で迎えるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同志と一緒にトランプやカルタをしたり、協力してパズルを完成させたりと関わり合い支え合うようにしている。	○	利用者ができることはしていただき、孤立しないように職員が常に声掛けし、利用者が関わり合うようにしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	手紙や電話連絡などで関係を断ち切らせないようにしている。	○	サービス利用が終了した利用者や家族との関係をあまり持ち込まない。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人本位で物事を考え、一人一人の意見を取り入れ、日々を暮らしやすい場を提供するようにしている。		常に意見を聞き、毎日を楽しく暮らしてもらえるように取り組んでいる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの暮らしを常に職員一人一人が把握し、ホームでの生活に取り入れるようにしている。		生活歴・生活環境を生かし、一人ひとりがより良い生活をできるように職員がその人に合ったサービスを提供するようにしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人一人、一日の過ごし方が異なるため、なるべく今までしてきた日常になるように努め、現状でできることをしてもらっている。		一人ひとりが有する力を発揮していただけるように、入居者のペースに合わせたケアを行っている。急がせるようなことはしない。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	アセスメントに基き、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえ、本人、家族、必要な関係者の意見を取り入れ、具体的な介護計画を作成している。		入居者一人ひとりの状況に応じて特徴を踏まえた具体的な介護計画が作成されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じて随時の見直しを行っている。		介護計画の内容は定期的にカンファレンスを行い、見直しをしている。加えて入居者の状況変化に応じ、都度見直しをしている。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護や介護計画に反映させるため入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。		入居者の食事、排泄、水分など個人別に細かく記録している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族が泊まってもいいように和室があり、寝るためのスペースがあり、布団、枕を用意している。	○	ほとんど泊まる家族はみられず、和室はあまり活用されていない。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員に協力してもらい、ホームにボランティアにきてもらったり、消防署に協力してもらい、ホーム内での避難訓練を行っている。		読み聞かせボランティアや民謡ボランティアなど来てもらい、入居者が楽しんでもらう場を提供している。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合う機会があり、他のサービスを利用するための支援をしている。		職員同士が他のホームへ訪問したり、年何回かサービス事業者の話し合いの場をもっている。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	年に何回か分けて地域包括支援センターの職員が来所され、本人に質問し、長期的なケアマネジメントをしている。		アドバイスを聞き、日々のケアに生かすように取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	心身の変化や異常発生時に気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護師等)		提携医療機関や協力医療機関にいつでも相談できる体制である。夜間でも対応可能である。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医がいる病院へ常に受診できるよう職員が相談したり、利用者が治療を受け入れやすい体制をとっている。		常に医師と連携を取り、認知症に関する相談をし、治療や投薬について医師の意見を聞くようにしている。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週1回訪問看護があり、一人ひとりバイタルチェックをし、日常の健康管理に努めている。		訪問看護によって、日々の変化がわかりやすく、気軽に相談し、その日の体調を見ることができる。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合、早期退院のための話し合いや協力を医療機関と行っている。		入院した場合はホーム長やスタッフが見舞いに行き、医療機関の医師や看護師と早期退院に向けて話し合いを行っている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	すぐにかかりつけ医に連絡を取れる体制を取り、緊急時は家族を呼べるようにし、スタッフ全員で方針を共有している。		かかりつけ医と繰り返し話し合い、今後について何度も検討し、家族に対しても今後の方針について話し合いをもっている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホームでできることのみし、それ以外はかかりつけ医と連携を取り、チームで支援に取り組むようにしている。変化に備えて常にミーティングしている。		一刻を争う時は早急に救急車を呼び、通院にいける体制をとっている。その後は今後の変化に備えた準備をしている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替えをする時は家族や本人やケアに関わる関係者と十分な話し合いや情報交換をしている。</p>		<p>本人と家族と納得するまで話し合い、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりに対し、大声で話し掛けたり、命令口調で話し掛けたり、友達感覚で話さないようにしている。記録等は外に出さないようにしている。</p>	○	<p>言葉使いは気をつけているが、たまに大声で話したり友達感覚で話してしまうため、プライドを損ねるような言葉がけをしないように取り組んでいきたい。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員は入居者一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりすることを大切に、それらを促す取り組みを日常的に行っている。</p>		<p>希望を聞き、散歩に行ったり、ゲームをしったりしている。入浴時もいつ入浴するなど希望を聞き、取り組むようにしている。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら、暮らせるようにしている。</p>		<p>スタッフは入居者のペースに合わせたケアを行っている。急がせないように配慮している。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居者一人ひとりの希望に合わせて理美容院の体制を支援している。(カット、パーマ、毛染め、セット等)</p>		<p>訪問美容院を利用できるほか、スタッフが同行して近くの理美容院に行ったりしている。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員も入居者と同じ食事をし、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。</p>	○	<p>食事の際はスタッフが声掛けしながら、入居者一人ひとりの必要に応じて介助はしているが食事は一緒にしていない。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	自宅で使用していた茶碗や湯のみ、箸などを使い慣れたものにし、食事を楽しめるようにしている。		茶碗、箸、湯のみは個々の持参したものが使われている。そのほか食器も瀬戸物で家庭的なものが使われている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。		一人ひとりの排泄パターンを把握し、小さな気配りを察知し、前誘導を適切に行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者一人ひとりの希望に合わせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。		入浴は毎日できるようになっており、時間帯や長さも希望に沿っている。本人の希望に合わせて週3回程度入浴している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者一人ひとりが睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者には1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。		昼夜逆転しないよう入居者が日中楽しめることを見い出すよう支援している。夜、眠れない入居者にはスタッフが一緒にいて話を聞き安眠できるように誘導している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみや出番を見出せるよう場面作り等の支援を行っている。		テーブル拭き、台所の手伝い、花の世話などしてもらっている。ホーム内ではカルタやボール遊びなどが入居者に好まれている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者は基本的にはお金はもっていないが、どうしてもお金を持ちたい入居者は毎日スタッフが数をかぞえ、なくならように支援する。		数名の入居者が小額の現金を自分で管理している。スタッフが必ずこまめにチェックするようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居者がホームの中だけで過ごさずに積極的に近所に出かけて楽しめるように散歩へ行けるように支援している。		近隣に公園や保育園があり、毎日散歩に行っている。今後散歩へ行く人数を増やし、長く歩けるように取り組んでいきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望があれば、他の利用者や家族と共に出掛けられるようにしていきたい。	○	あまり散歩以外に外出することも少ない。カラオケやボーリングなどに行く機会を増やしたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入居者が自ら手紙を書いたり、電話が気軽にできるように支援している。		手紙を書いたり、電話をしたり、家族から電話が来ることも多く、家族と入居者の間をたもつように支援している。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。		面会時間は自由であり、家族や知人がいつでも訪問できる。遠方からの訪問者のために寝具なども用意されている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。		身体拘束は行われていない。定期的に行われる会議においてスタッフ間で確認している。夜間のみベッド柵を使用している。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてすむような配慮をしている。		玄関には日中は鍵をかけていない。人の出入りがわかるように玄関にはセンサーが設置されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>常にどこにいるかをきちんと把握し、転倒などないように安全に配慮している。</p>		<p>昼夜通して一人ひとりの場所をきちんと確認し、プライバシーに配慮しながら、安全を確保するようにしている。</p>
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>包丁やハサミなどの刃物は近くにおかず、一人ひとりの状態に応じて少しでも危険がないようにしている。</p>		<p>スタッフが危険な物はきちんと保管、管理し、手の届かない場所に置いている。マチ針やハサミなどは使用するのみに渡し、使い終わったらスタッフが受け取り、保管するようにしている。</p>
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>常にどこにいるかを確認し、転倒しないように気をつけている。誤薬を防ぐため、必ず見守りやスタッフが服薬介助し、誤薬しないように取り組んでいる。</p>		<p>会議で火災当を防ぐための話し合いをしたり、どのようにすれば事故防止にならないのかを考え、常に行動するようにしている。</p>
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>ホームに何回か消防署の方が来て、職員に対して応急手当の仕方や人口呼吸などを教わる場が定期的に行っている。</p>		<p>年に数回しかホームへ来所されないため、もっと数を増やし、全ての職員がすばやい応急手当をしたり、心臓マッサージなどをできるように取り組みたい。</p>
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>火災や地震を想定し、スタッフと利用者が外へ避難し、災害対策を行っている。夜間を想定した災害対策をしている。</p>	○	<p>災害を予想した避難訓練をしているが、年に数回しかしていないため、回数を増やし、きちんとした避難訓練方法を身につけるように取り組みたい。</p>
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居する前に家族に対しきちんと話し合いをする場を設け、起こり得るリスクを説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策をとっている。</p>		<p>家族に対し、わかりやすく説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	必ず1日2回体温と血圧を測り、日々の体調に気を配っている。異常時は速やかに通院するようにしている。		体調が悪い時は何度も体温と血圧を測り、状態変化を見極めるようにしている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を周知しており、入居者一人ひとりが医師の指示通りに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。		薬は処方せんを把握、確認するに、個別に管理・用意し、入居者に提供しているが確認漏れがないように配慮している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	飲食物には気をつけ、牛乳や野菜ジュースを出し、少しでも便秘にならないようにしている。体操や散歩などをし、体を動かすように心掛けている。	○	かかりつけ医が出ている便秘薬を出し、便秘にならないようにし、水分を多く取ってもらえるようにゼリーやプリンなど少しでも工夫するように取り組んでいる。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き、入れ歯の手入れ、うがい、出血や炎症チェック等)		毎食後の歯磨きが励行されており、終了後はスタッフが点検している。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の水分量を最低1500cc以上摂ってもらえるように心掛け、食事も工夫し、栄養バランスに気をつけ、食事をしている。	○	
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。		入居者やスタッフ全員がインフルエンザの予防接種を受けており、感染症マニュアルも整備されている。毎日必ずジアノック消毒をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、買出しをし、常に新鮮で安全な食材を使用し、食中毒をふせぐため、手洗い、うがいを徹底している。		購入した食材は必ず使う日付を記入し、すべて使い切るようにしている。使わない食材はすぐに破棄している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、誰でも訪ねやすいよう、玄関回りや建物の周囲に家庭的な雰囲気づくりの配慮している。		玄関入口は開放的な設計であり、グループホームを示す木製の見やすい看板がある。観葉植物も飾られている玄関前にはスロープがあり、車椅子でも使用できる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の生活空間がいずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。		ホーム内は日当たりが良い。畳敷きのスペースもあり、家庭的な造りとなっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間の中に入居者一人になったり、気のあった入居者同士で自由に過ごせる場所となっている。		居間や玄関には長椅子が複数用意されており、廊下の角にもテーブルや椅子が配置されており、自由に過ごせる居場所が確保されている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して居心地よく過ごせる場所となっている。		居室内のものは全て個人の持参した家具や生活用品であり、安心できる場となっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	気になる臭いや空気のおどみがないように、換気を適度に行っている。また冷暖房の調節は冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。		臭いやおどみはなく、暖房は個室ごとに調節できるようになっている。換気も適切に行われている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下には手すりがあり、歩きやすくなっている。トイレにも手すりがあり、車椅子でもスムーズに入れるようになっており、安全かつ自立した生活が送れるようになってきている。		手すりを使いスクワットをしたり、手すり拭きなど身体機能を生かしている。建物は段差がなく、どこでもスムーズに歩けるようになってきている。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりがわかるように職員がゆっくり会話をし、理解できるようになっている。うわさ話などをしなようにし、混乱や失敗がないようにしている。	○	スタッフが大声で話したりせず、わかりやすい会話をし、混乱や失敗を防ぐように心掛けているが、まだ徹底されていないので取り組んでいきたい。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の回りや花壇や畑、ベランダなどがあり、利用者が楽しんだりできるようになっている。		夏にはベランダでバーベキューをしたり、畑仕事(種まきや野菜の収穫)、花の水やりなどをし、活動出来るようになってる。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族</li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>



V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている  <input checked="" type="radio"/>②少しずつ増えている  <input type="radio"/>③あまり増えていない  <input type="radio"/>④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が  <input checked="" type="radio"/>②職員の2/3くらいが  <input type="radio"/>③職員の1/3くらいが  <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が  <input checked="" type="radio"/>②利用者の2/3くらいが  <input type="radio"/>③利用者の1/3くらいが  <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が  <input checked="" type="radio"/>②家族等の2/3くらいが  <input type="radio"/>③家族等の1/3くらいが  <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点

等を自由記載) お客様一人ひとりが毎日楽しく過ごせるようにスタッフ全員がどのようにしたら充実した日々を送れるかを考えながら介護するように取り組んでいる。